

編集後記

8月の18日にこの原稿を書いています。今夏は少くとも京浜地区では異常気象としかいいようのない7月、8月でした。8月にまでずれ込んだ梅雨明け、8月に入ってから台風や熱帯性低気圧による連日の降雨と低温という状態でした。この号が皆様の御手元に届く頃には、9月らしい爽やかな風が吹いていることを期待したいと思います。

さて、本号は成人脳性麻痺の特集をお送りします。脳性麻痺のリハビリテーションは、我が国では脳性麻痺児のリハビリテーションとして、肢体不自由児施設を中心に発展して来ました。しかし、昭和70年代からは、施設に入っている脳性麻痺者の高齢化、アテトーゼ型にみられる頸椎症脊髄症の問題がクローズアップされて来ました。とはいっても、実際には、成人脳性麻痺者のリハビリテーションの体系は、システムの上でも、治療学的観点からも確立されていません。

このような状況の中で、執筆者の皆様には我が国の成人脳性麻痺者が直面している問題を各々の立場からまとめて頂きました。日本における成人脳性麻痺の現状が浮き彫りにされ、我々のなすべきことは何なのかについても多くの示唆を与えて頂いた

ような気がします。執筆の各位に心から御礼を申し上げたいと思います。これらの問題を踏まえて、乳幼児期から高齢者に至るまでの脳性麻痺の一貫したリハビリテーション体系が各地に整備されることを期待しています。

巻頭言で竹内氏は、脳卒中患者を例にとり、生活ヘリハが踏み込むことの大切さを述べておられます。奇しくも、特集の手塚論文の中でも、成人になっての多くの問題は、生活の中からおこって来ることが指摘されています。各種の障害者に対して、どのような生活環境が最も望ましいのかも考えていく必要があるのではないのでしょうか。

投稿論文としては、症例報告として長谷氏の論文、調査として榊原氏の論文を掲載することが出来ました。各々に興味深いものでありましたが、榊原氏の論文はアンケート調査のみであり、是非実際に患者を見た上での第2報を期待しています。

最後に、第25回の日本リハビリテーション医学会の特別講演者のDiller教授のインタビューを掲載出来ました。白野氏の御苦勞に改めて御礼申し上げます。

(大川 嗣雄)

総合リハビリテーション (第16巻 第9号)

1988年9月10日発行 (毎月1回10日発行)

1部定価 1,750円 (配送料60円)

(年ぎめ予約購読料 19,560円)
(送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 社内案内 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5704

(担当: 山田・細田)

販売部直通 (03) 817-5659・5660

ファクシミリ (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 三報社印刷(株): 電話 (03) 637-0005

広告申込所 (株)東広社: 電話 (03) 409-8803

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
河 邨 文 一郎
五 味 重 春
津 山 直 一
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
岩 倉 博 光
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
奥 川 幸 子
加 倉 井 周 一
小 島 蓉 子
齊 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 橋 勇 吉
高 松 鶴 吉
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
土 肥 豊
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 敏
長 谷 川 恒 雄
初 山 泰 弘
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
米 本 恭 三
渡 辺 英 夫
(五十音順)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 1988, Printed in Japan.
本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。